

菅原孝実卷三

目録

- 第一 率部波安乃子うじ事
- 第二 右様と社々事
- 第三 狸業乃事
- 第四 多めさの腰被も偽りぬ事
- 第五 山姫乃事
- 第六 持人あもさるぬりのとら事
- 第七 蛇の分食とのふ人乃事
- 第八 湖へ入妻をとり事

宿直草卷三

- 第九 伊賀の池は地をじ事
- 第十 幽具乃方人れ事
- 第十一 ゆうきいゆい男と睨こらじ事
- 第十二 登りまの渡船よりうら事
- 第十三 男と囃ふとんま乃事
- 第十四 風乃憤人をあらせし事
- 第十五 ねどと人をくらふ事

宿願集巻之三

第一 率部婆の子らむす

申右様するしりして終乃らるるてをよかられ
る記とまありおれまるとはのうら子あり
うれがちいほのふとん田のふよ様居るとい村
そのまのりあまるりお田とく一畑とうら
も穢とほくく屋敷らうらうたる樹也
かくてもうらぶらうまあうされをも二人
乃下人妻さんどらびてよふおあれ田記
あうさびとほくれおいたりひらう申のあま
を何とあひれおんとしてほく一のうらま
むくじらうのぞらうらまんどあてはら
らうらま事にああうらうは世やおれ力
られまらうらまもさぞあうらんと交首お

つかりんらうらまられらあうらうらうらうら
とらうらまらおらうらうらあゆられまらかひて
るれもたまらぬ田舎らうらうらうらうらうら
かうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
さうらうらうらうらうらうらうらうらうら
も雲らうらうらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうらうらうら
率部婆はらうらうらうらうらうらうら
ともまらうらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうらうらうら
そらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

よるまじとてなぐして是より内家よめて
率部盛るりとのふ業いづれどもなり板
をこねしとてしめしむら子いそご
ちてよりある露人ともわれりおこしとてく乃
たひいとるにあり情絶ん乃盛すれと弁せよ
第ニつたぬを結す

さる人のいともさむ七八わんのひつさうとな
らひ一押りつて入りよ盛す乃も柄くれんさ
まんとてたさき程とんをいぼくして村程ふと
りつよ引酒ありてとづりよやめぬ二こもて
兄弟子つらしてつらやうに時乃程の陣と集
と角二一人一と村より来たありよある僧
人のいともあなれそめて悲びくよわよひ
がのさうぬいりせのやまの不覚のさきやま

してあめさる人めなむぬカとさる人め乃陣も
いぶせりわれもやよそふあつるも乃あつるも
つふとれようらむや月をみらくふ難産よ
してさるもさるもさるもさるもさるもさるも
ありあてかきつる程とてさるもさるもさるも
さるもそのさるもその程とてさるもさるもさるも
傍のさるもと程乃中作よさるもさるもさるも
さるも傍のさるもその思ひとてさるもさるもさるも
とてさるもさるもさるもさるもさるもさるも
人法身よさるもさるもさるもさるもさるもさるも
一程とてさるもさるもさるもさるもさるもさるも
程やうものさるもさるもさるもさるもさるもさるも
さるもさるもさるもさるもさるもさるもさるも
よさるもさるもさるもさるもさるもさるもさるも

なることとおかきかきあの中へもあをほして
 くれ傍乃乃意をうつらだちよ夫さほりて
 申のようとうふのあうと借あれそはあ
 やうくちううようまれりなぐが
 かけんあづまれどあそととらりてあち
 なくそゆるまきりに強め夫とりそへ
 びらうくよう師のいも物づきやうあ
 してひごはくをうも時考とるせよと後
 てまうよ吹舞よちううさそ意さる人あ
 つらあもやかんふらううとととあう
 さらりううり下みくど行よりつ
 舞をとなくと点乃物あられるあひ
 ゆうひ乃ものありしうどとらりて
 とらうひささちりねあたぐんあ

箱直草卷三

五



し。ま。さ。う。人。を。と。も。一。夜。さ。れ。も。あ。れ。か。の。何
乃。や。い。う。た。ん。ど。く。う。れ。し。う。さ。い。ふ。さ。け。を
を。命。を。多。く。ら。る。そ。と。い。う。控。ま。い。て。い。く。も。た。い
ひ。ま。し。べ。ー。又。も。ま。下。さ。れ。ん。と。い。ふ。ま。さ。ら。し。り
り。ら。て。し。き。さ。ゆ。ら。と。い。ふ。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
む。と。う。せ。ん。と。い。ふ。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ
本。る。ど。う。そ。う。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ
ま。り。ひ。て。う。れ。り。ぞ。の。ま。い。ま。ふ。あ。り。ま。し。べ
ま。い。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
ま。い。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま

兼。理。乃。後。つ。も。も。ゆ。り。さ。う。ぬ。ま。す

ち。く。せ。ん。の。人。の。う。り。の。我。由。は。ゆ。ら。と。い。ふ。山。あり。猶
の。し。て。世。と。ま。さ。ら。者。あ。り。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
え。せ。る。ふ。た。と。い。う。板。ま。ん。ど。や。し。き。ま。し。べ。の。業
う。ら。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま

な。ど。れ。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業
ま。い。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
乃。板。ま。ん。ど。や。し。き。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
の。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
り。か。ら。い。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
い。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
か。ん。ど。わ。り。て。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
あ。い。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
め。ら。り。つ。十。日。だ。ら。り。も。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
つ。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
は。い。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま
乃。板。ま。ん。ど。や。し。き。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま。し。べ。の。業。と。い。う。ま



宿五草卷三

といふげあゝじまの心かよがらまこそあ
 死されとんこまゝてかゝぶいよくらうて
 赤うしりしりぬりしりくらうてまよふ
 もぐれのびりねあをせむらちるせうけい
 かりろさ事いしよらんちうくまお
 一時づら打てりとのらんちうづらた
 ざるりくらとらんせよあまをらんちう
 としひしちうらたれせまも

第スヤマ姫乃事

あるらうあんのいしこゆあをちやまふあり
 としひしちうらたれせまも
 ちのねでたわりの女らんまも
 世はたぐらうたがらんちうくまお

船乃船中よらりやうるありとゆきあり
るさく人ともさるしほつたつてしはねし
よおほつとあつてもひさねとてしはつら
し美田中うらしほうよちたてよらゆきとら
こそものくちびらよお平とあつるありと海を紙
とさるゆりくそさるゆきとてしはつら
あつてもゆきとてしはつらとてしはつら
いとりとてしはつらとてしはつらとてしはつら
はつらとてしはつらとてしはつらとてしはつら
てくるに遠くきせげうらり—ありとてしはつら
と—ゆきとてしはつらとてしはつらとてしはつら
りあつてもゆきとてしはつらとてしはつらとてしはつら
ひつらりともさるしほつたつてしはねし

第六獵人をもさるゆきぬのよとらら

省直草卷二

九

船乃船中よらりやうるありとゆきあり
るさく人ともさるしほつたつてしはねし
よおほつとあつてもひさねとてしはつら
し美田中うらしほうよちたてよらゆきとら
こそものくちびらよお平とあつるありと海を紙
とさるゆりくそさるゆきとてしはつら
あつてもゆきとてしはつらとてしはつら
いとりとてしはつらとてしはつらとてしはつら
はつらとてしはつらとてしはつらとてしはつら
てくるに遠くきせげうらり—ありとてしはつら
と—ゆきとてしはつらとてしはつらとてしはつら
りあつてもゆきとてしはつらとてしはつらとてしはつら
ひつらりともさるしほつたつてしはねし

もさうしん 控法師よもよまきくくくも 毛れ
色げ神よいもてらるるありさ海されもさだも
きくろもらうこそせめがれ天まふささあふくろ
おくれがのほほておしきさけあふくろよそゆる
兼八湖よ入武多とさる一車

河川よてある置さうひの虫二りり乃神を切
ち申こ吳のく神物とよぶ人の位ふひひ
乃らよの東さるるさ海し神ありつひよ湖の底
しきむたむひひさきりさるるに何さあ
よやよのさうひひの門よふ海乃神は通活さるる
とれよさそとさだゆるみこさ事あたる事
ひさ事りりて捨さる又つさの神もせひさう
終くさるるさ海さるるもさりてさるるふほよは捨
てもさそとさうさ六七般八九般もさりてあま

さんさうらん 悪白とて控急さる事いさるらあ
さうらひんさくさうまあるあさささうらうら
でうまうぬと思ひあもせひさくさささ
アおちさうよ神とさ海と人さの事ぬよ神切
とよぶらわささあささあささささ
自燈しさる事さあささささ海は神あるは
よてささささささささささささささ
よえささささささささささささささ
ささ下あつささささささささささ
かのえとさささささささささささ
その海へはささささささささささ
ささささささささささささささ
うとつひあつささささささささ
ひさささささささささささささ

乃ぞめを侍酒あくる中ぞ破てもさうふかり下敷
よわきしり一括してさるの意よいつるあをちやと見
あふあがさるるをさうしてうめり息ととくと
つきて極く地やあるとち姓ち姓かろくにりとか
さうあれど出ぬ地とちりよものもなり。姓
あさるる層の下に産きさるる層をさうりあさ
るありさの洞よあ乃うさうさうはらうて光
りのみさうさうさうとちひやをて休ふり
こさふ三刀さるはあてさうさうさうさうさう
さ海合兵ゆぬりのさうさう一交ゆさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
と下若ふはさき又のさうさうさうさうさう
あはくもさうさうさうさうさうさうさう
甲さうさうさうのさうさうさうさうさうさう

と初むる夢やまはさうさうさうさうさうさう
乃入あさるさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
作さうさうさうさうさうさうさうさう
侍地さうさうさうさうさうさうさうさう
乃さうさうさうさうさうさうさうさう
地をさうさうさうさうさうさうさうさう

第九 伊賀の地と地と

いぬの地何きの那うださうさう地ありて大地と
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
多さうさうさうさうさうさうさうさう
よまの地さうさうさうさうさうさうさう
ありさうさうさうさうさうさうさうさう
下人よひはさうさうさうさうさうさうさう

まてはへしとてまか一人はく決まわしと
 わらるに帯の外よりうけてまのまをゆくふぞと
 こりくしてかぶるひと一代まぬめづしと
 申しあとおりのふまあまらり乃女まう向まら
 さるるこれぞ大地とてうまははくろあまもあ
 くはま司りまゆくまゆれまおりちまよと記
 記しそは乃内よまありてまの人もま
 まちままままらまらまら細もまらまらまら
 ま記まらまらまら大地もまらまらまら
 とまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまら
 大地と十極乃極まらまらまらまらまら
 娘まらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまら

御直草巻三

一四



まつて力とまのこもいもむさうめらの
徳ありてあやの西へ移らんや小勇ハ血氣此
勇かり大勇を礼義の勇なりと滋敬まとい
ひくちけいこそとつりまもこもあつらへ
もちりごころさめてあつらふもあがり
み神のあまひやいもい

第十 中よりまの乃方人の事

開乃新は函君のこころして命とらなま
そのありごころその徳も徳ありやうさけ
なる男のつとてあけいふとんふはけいけ
うくまわり書もまこころあつらひつ
るりえれむじきくふかろむせもせぬ申あ
やうくあつらふもあつらふもあつらふも
ぞあまひこころたたりふ秋風のあり

うらまのあつらひさげ乃水のうらまの
られ事もあつらひさげ乃水のうらまの
かこの乃さぬ乃さぬさげけいけいこもあ
いうの海はさうすすてまのうらまの
才とあつらひさげ乃水のうらまの
はつらひさげ乃水のうらまの
丹伽陀乃醫術もあつらひさげ乃水の
いまのあつらひさげ乃水のうらまの
もん枕ふらてんさうさうさうさうさ
つらひさげ乃水のうらまの
とく事のあるさうさうさうさうさ
しきあつらひさげ乃水のうらまの
あつらひさげ乃水のうらまの

あつちの男のくをかくかかひひさうふんぐさ
らまじらまれ一は神よわつわゆいこそつら
一なれ一それとともみらゆくのあづまよま
ぶうしをまじらまを物ねるらんよらまはまて
うれ一さ命よそこそまゆらんまてまも
るまじらまもまぬむいこまのふまを
まよとかんともまをまぬむいこままの
まうまゆま一ままのゆり乃せま一ま
とまのまあまままをま一まあま
ま一ままをままゆまもまゆりま
ともまままゆま思ひままゆりま
どのままひまゆれ一まままのままゆりま
ままままままのままままままま
いとままままままままままま

かかまゆまれまゆ一まままゆらま
まかまゆままゆまゆらまゆらまゆらま
まままのまままゆまままままま
ひまままひまままままままま
あづまのまままままままま
くれままままままままま
あまままままままままま
ままままままままままま
あままままままままま
まままままままままま
一まままままままま
ままままままままま
ままままままままま
ままままままままま
ままままままままま
ままままままままま

草の葉乃くげと毛のつりよとを移乃ううとさても
 こうといひていひてまじりの村ちうさふふと業を
 てあつまりし者よりぐらゐのちあひとたふふ人
 かいとく何そのまらあらん。儂りよこそとてい
 産中色めのくちうさてゆきて思ふといひ極
 てもたすよとあせんとあまの産中乃その
 けあらんよとていしてそちと毎日つるま
 けん又えぬけさまれくとあつまんとちやま
 どもよとるたと同いその家乃らんよとれを
 ちうよたてふとして行よとさめつあつと
 面つてうまとり養ふけ境よあつれどもおん
 乃ごとしてあつたかたつていよとつら
 ぐらふとあつたはあふよとちうさ乃のよと
 まり何者ぞといひて。あつたつとこのそれか
 につふうとてあつたつひ死よとつらとつらに
 つかあふよとていひてあつたつとつらとつらに
 ちうあつたつてあつたつとつらとつらに
 ちのあつたつてあつたつとつらとつらに
 て人のつらとつらとつらとつらとつらに
 おひとつとあつたつとつらとつらとつらに
 とつらとつらとつらとつらとつらとつらに
 乃。あつたつとつらとつらとつらとつらに
 とつらとつらとつらとつらとつらとつらに
 ちうとつらとつらとつらとつらとつらに
 せんといふよとあつたつとつらとつらに
 乃あつたつとつらとつらとつらとつらに
 あつたつとつらとつらとつらとつらに

につふうとてあつたつとつらとつらに
 つかあふよとていひてあつたつとつらとつらに
 ちうあつたつとつらとつらとつらとつらに
 ちのあつたつとつらとつらとつらとつらに
 て人のつらとつらとつらとつらとつらに
 おひとつとあつたつとつらとつらとつらに
 とつらとつらとつらとつらとつらとつらに
 乃。あつたつとつらとつらとつらとつらに
 とつらとつらとつらとつらとつらとつらに
 ちうとつらとつらとつらとつらとつらに
 せんといふよとあつたつとつらとつらに
 乃あつたつとつらとつらとつらとつらに
 あつたつとつらとつらとつらとつらに

さて七便きやとのつふあつる目宿乃肉くつりて
つわやう。正月八日の宵。薪火多てう勢て云やう
らざりやいさうさ乃人をも屋うてさけらるさ乃比
らざり。終つべきを待どもふあひそなんと。無守
りまをさこそおんとさく打。あひびぐさごう。海ど
ろびとあつるやどあうあ。やとそたをろさう。あ
うらひさごう。あをあせらつらごう。さ。足。伸。し。く
びりくつとあつひては。あまうらひやもせびあま
つこのそりあやうらなれむうらくつとせうらども
だづくもそく。迷中。風とあまのやうと。あひ
が。髪。そりて。沐浴。せし。ま。け。は。よ。や。さ。う。の。ち。う
し。やう。乃。あ。と。ま。入。お。さ。う。の。ゆ。さ。う。入。な
ん。極。も。あ。つ。さ。ふ。の。な。れ。び。ん。は。あ。が。さ。う。ら。ん
と。う。ろ。扱。ハ。例。乃。ら。う。つ。さ。う。な。が。流。ら。り。と。ひ。さ。く

あなれあつるま。さ。さ。さ。と。あ。ひ。十。機。あ。ん
と。り。り。形。と。の。つ。て。い。さ。さ。さ。の。菊。月。は
あ。ら。あ。う。さ。て。別。れ。あ。ま。の。あ。表。ハ。可。裏。ハ
も。さ。げ。さ。を。賊。と。さ。せ。ぐ。帰。も。な。く。風。と。さ。び。ひ
神。さ。さ。も。な。さ。ま。や。四。何。屋。乃。あ。り。さ。ま。ふ。難。な。ら
あ。さ。う。屋。あ。り。う。ら。う。は。家。あ。て。ひ。く。魚。さ。ご。た。も
さ。く。納。代。ら。さ。う。ご。さ。さ。り。竹。や。り。と。さ。さ。て
と。く。さ。さ。さ。ひ。う。と。紙。さ。さ。り。は。ら。り。そ。ま
際。み。な。り。あ。る。表。の。室。の。さ。さ。し。は。ひ。り。の。勢
う。つ。さ。男。事。あ。り。さ。ふ。さ。さ。さ。ば。さ。さ。さ。さ。さ
よ。ひ。う。ら。さ。ふ。別。ら。る。事。あ。も。お。と。さ。ら。う。さ。さ。さ
さ。さ。さ。さ。さ。さ。の。お。勢。さ。り。ん。の。や。ね。ま。う。ら。あ。ら。よ。
二十。さ。ら。乃。女。さ。後。さ。お。表。さ。さ。さ。な。れ。め。さ。さ。て。若
し。け。さ。あ。ら。う。の。う。ら。後。さ。に。は。ま。の。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。び。よ

くら多んつてさうけきりうそ言てもうはらうそ
みし物乃程いさげの力よもうがせんく
よちうづさやうく二男かとおるりておおとこの
うづはうとつまてありうづおそりうづいさ
うりる男乃例よらあき何ものぞとつんと男
を事もせぶおためつさむらりよありてつあう
はづよあやうとありなごおうてよびつけ
業るであそれどもあきむあくくあうあ
はうとあうされあり妻いあちせんのみあ
かうりもあうばはうあうのうらうそあひ
あうせしありうふとらうれ女ありともは乃
男うこくやよあうはううとあきあひ入
あ一念うらうおそりう 繫念云々切つてあ
るうんやあうてさうかのおわおとこらうれゆ

宿上五卷一

二十二

とこらうよりあうをれうこあてうき
あこらうい乃あんの赤よさうあうあ
さうばやいふあう乃さうりは車あうそ
ありさうあう人とうとあうそあてたう
この事ゆりうさうあてたう後磨のう
む乃ありのうさういんともあうん力
めさばうやうさういんともあうん力
つ乃あうと仁まうり 経よゆる念根
うらあるとも 親ゆを 誓 時 のうさう
うらりりあてまう力あらせんよあう
さかあうとあうさううらうとあう
よあありてあうらういさう
この神ようさうあうそのとんあう
乃あてうあうさういんともあう

ちねの乃湯とありどもあはれなるがんぢ成述よ
さくめおといさくひよちりるまゝ美りさくめく
記をあ

第十二 幽霊後継ふらりひ

為要乃比うはの西内津といつあよ百姓乃妻
らそくろふまそ七目めふ又よの妻とくらだめ
しとらるるをゆつまふ記をさよ神ひちて然
とつらひこそせめさるるそちまよめやさくめ
しとらるるあんのごとくほ乃妻くらりしとらま
りのまづさそを初も目も物くらり女乃父母
さやう乃とら後よあらうそまあぐれとら
どらうくあひ入ていとんなるるへそ覚悟は
ぶらひらとそそなく婚の妻とらうてくらんけ
あらんげさるる人のよひいとらくらふやうるれた

宿直草卷三

二十四

くれは甲のめよあありくとらたり笑ひあうらよ
おひよ人ご月を乃牛まどうさねをさるるは
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
おさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
おさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
めよ今のほ中紙さび流もさうさうさうさうさう
経つばば力のあやまらよあさうさうさうさう
かおむさうさうさうさうさうさうさうさうさう
つとらわさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



ざとみしうごさるりぬんを救うりてまらつ鬼かたれ
 人まれのうごいていあううんあれものさりほわ
 とのうさうをまとしてあうるものやまのよを自
 らりて下人よひひけていましめまよ道に死
 影悟もなかく解き神もかみまど思あろく
 としあう振さみまらりみる宿乃女まらうし
 てまけまれともかんばがてんゆうぬまのつまた
 たりともくくまらう因一門もらりお乃代官もまそ
 がしうまらうてうれがあさやがてまらうあや
 むらりらり履の一天まそてむとも人もまきまら
 てまらうまらびまらあ人のあうまらまらまら
 くともまかてゆらあまらまらまらまらまらまら
 乃ひりまらまらためまらまらまらまらまらまら
 第十四章乃情あり人と殺せし事

さふち蒙衣の内よ中居の傍とら人江戸へ
 ほめろろくある付力痒うりなれをもわりて
 凡るふ中風なりたふふおどろきてまうとあると
 ぬれどもうけりし 縁なきわめをわみま
 一寸四方の紙しつとびらうられとて其堂所の
 ろしうらよわきめ乃あしよとて候義はとあ
 て西へくろくともてまうとて運置乃とてあつて
 ほととびの程そとひ物一なるに例のつとて
 ちよやとりありなぞてなごてたるふりれ
 紙がとうもくありてまうとてくくうりもせと
 かつまんとしむるふあまのまふとあるはまを打
 てられきくしれくんと入きいひうけりし
 ちうま乃とらんふまふとあるぬまよあつとて
 よあつとちやと學たからすしてあつとちあつとるぬよ

くれあつとちりとあをてつらくとてまあ
 うらとちらとあましく物いひまげんとあま
 うしつかあつとちらかりなれとてくくくく
 くられとちらせんとおいひまふとてくくく
 一はせんくよまふふなりとて痛治せしが
 けあよあつとちらとちらりて死せりとちり
 くれとちらとちらとちらと毒よて乃よあまはく
 くれとちらとちらりてとて死とらうしとあ
 さつとちらとちらとちらと林乃草の統びとてめそは
 おまふとちらとちらとちらとあまのちら
 けらうとちらとちら風のうとちらとちらと命の
 いとちらとちらとちらとてあまとちらとちらと
 くれあつとちらとちらとちらとちらとちらと
 くれあつとちらとちらとちらとちらとちらと

うねるいもかくくくひこるせりとのつりぬ
乃中よりやうこそあるにがらありさぬおりこ
のめんがらありきくもただが力のうへよひある
まじさうのよあつてまじさうのうへよひありのよ
なり一力のまじさうのうへよひあり物ごらりさ
るえれ